

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷宇納間170番地		
自己評価作成日	平成30年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成30年6月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域で、馴染のある人々が周りにいる、居心地の良い環境である。家族や地域の方も気軽に立ち寄り、戸外に出れば、昔から変わらぬ山や川が全貌に広がる。どれをとっても、ほっと安心できる。</p> <p>地域の方からの温かい声掛けや祭りや活動を通しての交流も楽しんでいる。利用者も個々に趣味を楽しんだり、全員で土に触れての野菜作りや収穫の喜びを感じている。また、法人内外の関係事業所や病院との連携も図られ、協力体制も出来ている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然に囲まれた住み慣れた地域で、家族の協力や支援を力にして、入居者はそれぞれできることに取り組んでいる。同敷地内の老人福祉施設や介護サービス事業所との連携を図ることで、職員も安心して入居者と接することができている。家族との交流では、ウォークラリーを家族単位で行い、俳句を作り、焼肉会を行うことで絆を深めるような取り組みも行っている。職員はケアマネジャーや相談員、管理者と身近に話ができる関係ができていることで仕事に楽しみを持っている。ペランダには入居者と一緒にプランターに野菜を育てており、収穫を楽しみにしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを大切に」を理念とし個々の利用者が住み慣れた地域での生活が継続出来るように職員全員で支援に努めている。	玄関横に「入居者の権利を保障するための9か条」が書かれており、「一人ひとりを大切に」という理念も掲げられている。理念は前任者の時に創られたものであり、何のために理念があるのかということが職員一人ひとりには浸透していない。	理念が何のためにあるのか、職員ともう一度考え、自分たちの言葉で理念を作り上げることで、行っている介護の振り返りになることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや馴染みの方々の慰問や地元の子供たちとの交流などを積極的に取り入れ、日常的に行っている。	3日間行われる宇納間大祭には、希望者全員を連れて、ゆっくりと楽しんでいる。地元の子供達や紙芝居グループとの交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が来苑された時に認知症の方々の支援や理解をつたえられるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑での現状を踏まえ、助言や意見を交えサービスの質の向上に活かしている。防災訓練は、運営推進委員、利用者、職員と合同で行っている。	家族代表、民生委員、行政の福祉課や防災担当者、地域包括支援センター職員等のメンバーが、一人ひとりの入居者について細やかに情報を共有している。助言や意見をサービスの質の向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	苑便りの発行や運営推進委員会へ二名の出席など、常に情報を発信、交換して連携は取れている。	運営推進会議への参加や、苑便りの発行で情報発信、交換ができています。行政からの依頼で、生活相談員が地域の研修に講師として参加しており、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を行い職員全員が共通理解し、拘束しないケアに取り組み実行している。	身体拘束をしないための指針が掲示しており、職員は常に目にすることができています。月1回行われる研修会の中で、身体拘束に関する研修を行っている。職員同士で声掛けもしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い、実際の事例などを参考に検証したり、日常の言動にも注意し職員全員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で説明は受けている。これからも繰り返し学んで行きたい。個々に、必要性があれば関係者と話し合い活用出来るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に理解と納得をしてもらえるように、分かりやすく十分な説明を行い不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来苑するたびに、努めて声を掛け情報提供を行っている。信頼性を築き、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	毎年1回家族交流会を行っている。今年は「ウォークラリー」を行い、家族単位で俳句を作ったり、クイズを行うことで、家族間の交流が図れ話しやすい雰囲気を作っている。面会も多く、その際に家族からの意見を引き出せるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の合間や、月一回の夜間自主研修などを活用し、重要な意見や要望は検討、反映させている。	備品等の購入に関しての提案は、すぐに対応してくれる。またそのことで得られた結果を管理者に報告するというシステムができている。業務改善はその都度すぐに対応されており、申し送りノートを活用して職員に周知されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し向上心を持って働ける環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修を受け学ぶ機会を推奨している。介護福祉士、介護支援専門員の資格取得に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会や勉強会等でお互いの知識を高め合い情報交換や交流会などを通してネットワークづくりに努めている。活動の中で得たことをサービスの質の向上に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはこちら側を知ってもらうことで、信頼関係を築き本人に安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度も家族と面談を重ね、信頼関係を築くことで相談しやすい雰囲気を作り、困りごとを話してもらえるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相手の現状をよく把握し、何が必要なのかを見極め、意向に添えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味や出来ることを大切にし、可能な限り一緒に行い、ともに支え合い家族のような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との共有する時間を多く持てるような、働きかけをし機会を作っている。また共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の祭りへ参加したり、行きつけの美容室やAコープへ買い物に出かけたりしながら、関係が途切れないように支援に努めている。	入居者同士も同地域に住んでいた方々であり、馴染みの関係が継続されている。近所の方が野菜等を差し入れしてくれる。入居者は行きつけの美容室を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの関係を把握し、全員参加で行うレクリエーションや歌鑑賞などを通じて、利用者同士の会話も弾み、より良い交流が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまでに培った人間関係を大切に、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話を聴き、思いや希望を受け止め応えられるように努める。困難な場合は、本人、家族、職員と話し合い手立てを実行出来るように検討している。	押入れのノブを紐で結んでいる入居者の思いに寄り添い、本人がはさみで紐を切った時に一緒に整理する等、本人の思いに寄り添っている。思いを伝えることが困難な入居者に対しては、表情や家族からの情報を元に本人本位を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族との信頼関係を築きその人の歴史や思いについて話してもらう。その人に関わる人たちからの情報や、関係機関からの情報提供依頼などに努め把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々共に生活し、気づいたことなどを記録して、一人ひとりの生活を見出す。心身状態を観察し、職員全員で情報を共有、把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の自主研修で一人ひとりの、課題とケアのモニタリングを行い、共通意識の下方向性を見出している。介護計画の見直しには可能な限り家族に参加してもらい現状に即した計画作成に活かしている。	全職員の記録をもとに、月1回の自主研修でモニタリングを行い、課題とケアのあり方を検討している。介護計画の見直しには可能な限り家族にも参加してもらい、本人のことに着眼することに努めているが、本人の声や行動の記録が少ない。	入居者が不穏になる理由を全職員で考えることができるような記録の方法を工夫することで、現状に即した、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を見出すことに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を「私の一日」「申し送りノート」に、実践、結果、気づき、工夫などの記録をする。また職員間で情報共有することで、実践へ反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況把握に努め、その時々ニーズに応えられるよう、柔軟な支援を心掛けている。他職種との連携を図り、迅速で的確な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られた地域資源だからこそ、しっかりと把握し本人の望む暮らしに近づけられるように、支援するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関に定期的に受診している。本人、家族が不安を抱くときは受診時に職員が同席し、全員で共通理解をして安心して医療と支援が受けられるようにしている。	基本的に家族によるかかりつけ医への受診である。本人の生活の状況をまとめ、家族に渡している。本人の状況によっては職員が同行している。受診後は、申し送りノートに記入し職員全員で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の「いつもと違う」を見逃さず法人内の看護師に伝え相談し、状況に応じて必要であれば適切な受診や看護が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から病院関係者とのより良い関係づくりに努めている。入院した際は早急に情報提供し実際の状況を確認し病院側からの情報も収集する。早期に退院出来るように連携を取りながら相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について家族と早い段階で話し合っている。苑での支援できる能力を説明している。主治医や家族、職員との連携をとり本人にとっての幸せになれるように取り組んでいる。	同敷地内の特別養護老人ホームとの連携が図られている。ホームで支援できる能力については、早い段階から家族に説明をしている。かかりつけ医の看護師との連携もとれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自主研修会の時に救急時マニュアルの確認と訓練を行っている。今後も繰り返し訓練や勉強会を計画していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度防災訓練を行っている。町役場の消防本部と運営推進委員会との連携で避難、誘導、初期消火の訓練も行っている。	毎月の避難訓練では、入居者の体験談を聞く機会を設けて、より身近なものとして訓練を行っている。運営推進会議メンバーに行政の防災担当者も参加しており、協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが個人として尊重され、プライバシーの保護や尊厳を損ねない、声掛けや対応に心掛けている。	入室の際はノックや本人への承諾を得ている。入居者はそれぞれ部屋で纏い物をされたり、横になったりと、個人として尊重されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃生活の中で信頼関係を築くように努力し、本人が気兼ねなく話が出来て自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にし本人の意向を取り入れたケアを行っている。個々の暮らしに合った過ごし方を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みのおしゃれができるように、一緒になって選んだり楽しんでもらっている。美容室へ出かけたり化粧品を購入したりと支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園を行い、一緒に収穫した野菜を食材に使って話題になり会話が弾む。献立のおかずの話で「昔はどうやってした？」と話が盛り上がる時がある。	ベランダのプランターに野菜を育てており、収穫した野菜が食卓に並ぶことで会話が弾み、楽しく食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立でバランスのとれた、また季節感のある食事となっている。水分摂取量、嚥下状態など栄養士に相談し共に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った声掛けをし、それぞれに合わせた口腔ケア、歯磨きの支援を行っている。歯ブラシの日光消毒や洗浄剤も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合った声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。夜間はポータブルトイレを使い自立を促している。	排泄記録より個人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。夜間もポータブルトイレを利用し、排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握する。百歳体操を取り入れ、水分補給を行いスムーズな排便につながるよう促している。場合によっては主治医や栄養士にも相談し指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者それぞれの体調や、外出予定を考慮しながら支援している。季節の菖蒲湯やゆず湯など取り入れ楽しんでもらっている。	本人の状況をみながら、入浴の順番や日にちを変えたりと、無理をしない柔軟な対応に心がけている。季節が理解できるような、菖蒲湯やゆず湯などの入浴も行い、入居者は楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが自由に休息できるように支援している。布団や枕を日光に当てたり、日中の活動を充実させたり、夜は質の良い眠りを目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を綴じ個人の服薬状況が直ぐに確認できる。与薬時は名前の読み上げ確認、顔を見て確認、意識した確認を行い事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主的に洗濯物たたみや草取りを行っている。それぞれの好きなことややりたい事を楽しんでもらっている。利用者全員でのレクリエーションも会話が弾み気分転換につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には努めて戸外へ出るように支援している。買い物や散歩、家族との外食、墓参りなど家族の協力や地域の支援をもらいながら行っている。	天気の良い日は散歩を取り入れている。すぐ近くに本人の田畑があり、散歩しながらその状況を見ることができる。家族の協力もあり、日常的な散歩や外出なども行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持つことはトラブルの原因になったりするので小遣い帳を作成し預かり保管している。買い物がある場合など、その都度渡して買い物を自由に楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族に宛てたり、電話をかけたい時は希望に沿うように支援している。携帯電話を使用している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるように季節の野山の草花を飾ったり、壁飾りを一緒に作成し空間を作り上げている。共用の空間は常に整理整頓に努め、工夫して使いやすさにも配慮している。	共用の空間は掃除が行き届いており、整理整頓されている。ベランダからは、田や森林が広がっておりゆったりとしている。ベランダのプランターには野菜が育てられており、話題となっている。食堂には、入居者全員で作ったちぎり絵が壁面に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で気兼ねなく書き物、読書、編み物などを自由に楽しめるようにテーブルやソファなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人希望によりTVや愛用していた家具などを持ち込み好みの部屋作りをしている。家族の思い出の写真やメッセージカードなどもありそれぞれが思い思いに工夫している。	本人の希望で愛用していた家具等が持ち込まれている。本人が作った作品や、家族の写真も飾られ、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれが分かりやすいように居室やトイレに目印を付けて、混乱なく自立した生活ができるように工夫している。		